

熊 事 研 会 報

第96号

平成21年10月30日

発行人 熊本県学校事務研究協議会
会長 中嶋 康晋

編集代表 研究部長 平木 雅万
〒869-4201 八代市泉町栗木 5866
TEL 0965(67)2029 Fax0965(67)2027

<今回の主な内容>

- ・第35回大会報告
- ・第2回理事会だより
- ・全事研セミナー復講
- ・SGSF チームくまもと
インタビュー
- ・財務ウィーク紹介
- ・九州各県の研究大会
- ・大会記録のお詫びと訂正

第35回大会報告

今年度は全事研福岡大会への参加を考慮し6月に1日の日程で大会が行われました。例年より縮小した形ではありましたが、静岡大学大学院教育学研究科准教授 藤原文雄 先生の講演を聴くことができ、共同実施のシンポジウムと併せて、大変有意義な研修機会になったのではないのでしょうか。藤原先生の講演要旨を記載し大会報告をいたします。

第35回熊本県学校事務研究大会全体研究会講演要旨

「共同実施について」

静岡大学大学院教育学研究科准教授 藤原文雄 氏

今回の講演では、大きく3つの話をされ、後半は質疑応答という形で会場の意見を取り入れていきました。講演の全文については9月に発行され、大会参加者に配布された「大会記録」に掲載しておりますので、ご覧下さい。

○「共同実施」というものをどう意味づけるのか

政策的に「共同実施」が初めて登場して10年経過しているが、多くの所で試行錯誤している実態があるのは、共同実施の意味づけが錯綜していることが根底にある。98年の答申には、学校事務を効率的に執行して欲しいというメッセージが出ている。効率化には次の3点の内容がある。①一人の事務職員がやるのではなく分担すること。②事務を集中・共同処理・分担制などにより、教育委員会と共同実施組織間での組織構造再編。③ITを活用した情報共有システムや事務の簡略化といったIT化戦略。これをどう受け止めるかは一人一人違うが、共同実施という名前の制度が入ることによりこういうことが「できるようになった」というメリットを考えて効率化できる所は効率化していくことが必要である。

公立学校の事務職員は主体性の発揮できる職なので、これまでのように自分の味を出すことも大事だが、今後の世代交代、異動等を含め、全体的に見て合理的かどうかという視点を入れてみることは必要となる。効率化型の共同実施はやらされた感だけではなく、自分たちが学校にいる意味を高める共同実施へと向かっていけると意味づけてみてはどうか。

共同実施を進めるために必要な条件の調査を取ってみると、1つ目は事務職員の意識という壁、ハードル、2つ目は校長先生の理解、3つ目は市町村教育委員会の理解となっている。市町村教育委員会の理解を得るのが難しいと言うが、逆に教育委員会のことを理解しているだろうか。交渉基盤の強化（接触頻度を高める。信頼獲得をする。）、伝える内容の充実（資料、写真の添付等）、交渉方法の工夫（校長会、PTAと同盟を組む戦略方法）など、理解を得るための手だてはあることを頭に置いておく。

学校運営参画型の学校事務の共同実施とはどういうものかという、中教審答申は、学校事務職員に、その専門性を発揮して一致協力して学校運営に参画して欲しいというメッセージを送っている。文部科学省が言っている学校運営とはとても広いので、学校運営の参画というときには教育課程への参画と考えた方がよい。つまり事務職員に教育課程に参加して欲しいというメッセージだ。教員とは違う知識や情報ネットワークを持っているので、コーディネート機能の一部を担うことが出来るし、

教材整備や人の手配、予算面のトータルアドバイス、危機管理のアドバイスもできる。このように教育課程の経営にも事務職員は参画できる。

採用されてすぐは、学校経営への参画よりも、今を乗り切る実務の話を知りたい時期で、辞めたいと思う率が高い。2、3年で居場所探しが出来て大体実務が分かるようになってくる。最初の10年で実務がどう学校全体につながっているのかの意味を発見できる。40歳（ベテラン）になると学校全体の動きを見ることができ校長先生の重点化に対しアドバイスをするなど、事務職員の完成体と見なすべきだろう。更に事務主幹は、自分の学校だけでなく中学校区全体を見て、うまく参画しているかどうかを実際にアドバイスすることが必要である。

まずは、校長先生や教職員と自分の学校の教育について語ることを一人一人の事務職員がしっかりやること。そして、それぞれのキャリアに応じて出来ることをしっかりやり、出来ている事務職員が助けに行こうではないか、という発想である。

○共同実施を考える際に事務職員のキャリア形成という観点をどう考えるのか

キャリア形成を簡単に言うと、どんな職業でもいったん就職してからずっと同じような考え方で仕事をするわけではなく、いろいろな経験を通して「非常に大きくなったな」「自分が変わったな」という経験をしながら飛躍していくこと。そういう一皮むけた経験と言われていることが、非常に注目されている。自分がこういう経験をして変わったと思う経験が多いほど、それだけ成長できるということ。そういう経験が多い業界、多い会社ほどそこで働く人たちのモチベーションも力量もアップしていくという考え方である。そこで事務職員の一皮むける経験とはどういうことなのか、それと共同実施はどう関係があるのか。今までは、事務職員の場合、職名が変わっても仕事は変わらなかったのではないか。それは不幸なことである。教員は様々な経験を味合わせて飛躍させることをする。一般の会社では大きな一皮むける経験、大きな転機になるはずの職名変更が、事務職員の場合一皮むける経験になっていない。事務職員の場合「人との出会い」によって一皮むける経験をする。定型事務から始まりミドルリーダー（30代）へ、教育課程全体に関わる職（40代）として、更には中学校区全体を見ながら学校経営をやっていくスーパー事務職員（50代）となっていくような、キャリア形成があった方が目指す目標があるので、若い人にとっては伸びやすいし、そう見られるようになる。そこで、モチベーションを高めるのは、よほど個人で出会いを求めていかない限り転機を迎えづらい職業なので、キャリアを作っていくことは事務職員にとって大事である。

また、事務職員だけが共同実施をやるのではなく、教務主任も校長も共同実施をやっていく。その中で事務職員は地域学校間の教育連携の事務局的な機能を果たしていくことになる。教育委員会がやる気になるかというのも大きく、それぞれの市町村でどういう共同実施がやりたいかを、事務職員のキャリアの違いを頭に置いて、もう一度考えて欲しい。それぞれの役割を明確にしていく上では、職名に応じた役割を県教委が任命権者の責任として考えていく必要がある。

○共同実施のリーダーの皆さんのあるべき姿

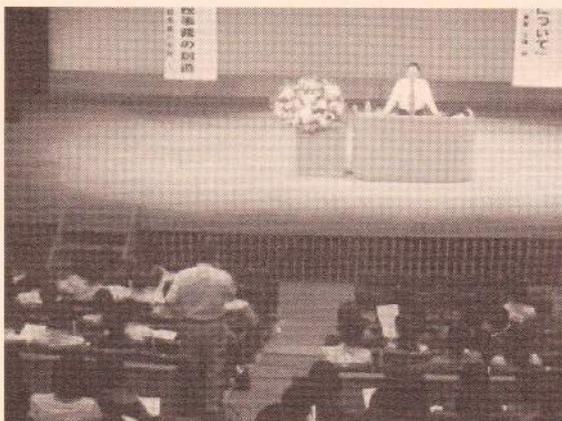
共同実施のリーダーは、多く4つの顔を持っている。

1つ目は教育委員会のスタッフ的な役割。2つ目は学校間教育連携をするならば、責任者である校長先生のスタッフ的な役割。3つ目は自分の組織を運営するリーダーとしての顔。4つ目は横の同じリーダー同士の顔。

リーダーが見渡せる範囲は教校だと思っているので、中学校区程度が適当だと思う。熊本はこの範囲なのでこれからの展開の可能性が高いと言える。そこでリーダー同士の連携をしなければならぬので、リーダー会を作る。共同実施を束ね、教育委員会の交渉窓口のトップに立つというリーダー会の会長を設置していく事になる。熊本市のように大きい市が同じようにしても30ぐらいの動きがまちまちになる危険性がある。そのため

に全体の動きや素敵な取組を集約する仕組みを作る必要があるが、教育委員会の職員には難しいと思う。従って、事務職員の中で取りまとめる人を考えていくべきではないか。

リーダーに求められるもの（人間性、誠実さや明るさ等）と、リーダー自身が必要だと思っている



もの（ビジョン形成能力、職員をどうまとめるか等）は食い違っている。この場合のリーダーは、上司を持つリーダーであるので、前述したように教育委員会の動かし方、校長先生の理解、交渉力を身に付け素敵な出会いを（チャンス）を待つのも手だてである。



長時間の講演を端折ってまとめています。
是非お近くに大会参加者がいらっしゃいましたら、当日の「大会資料」及び後日発行の「大会記録」をご一読されることをおすすめします。

（研究部編集）



理事会だより

平成21年9月9日（水）
於：水前寺共済会館

第2回理事会を開催しました。第35回大会の総括や反省、当面する課題についてなど、活発な論議が行われました。

1 今年度（第35回）大会の反省と総括

今年度は、例年の大会と異なり、1日で大会・総会行事、全体研究会と凝縮された大会となりました。

初めての会場ということで、運営面でも心配がありましたが、それぞれの担当で臨機応変に対応していただき、概ねスムーズに運営ができました。

参加者は、資料のみ購入者も含め全体で491名、当日の参加者も385名と当初予算立てした400名を上回りました。

全体研究会は、アンケートでも80%以上の方に「ニーズに合う」という回答をもらうことができました。

シンポジウムにおいては、ステージにモニターが無かったため、マイクを通した音がステージでは聞き取れず、進行が上手くいかず残念でした。初めての会場を使用する際は、簡単なリハーサルが必要だと確認しました。

2 次年度（第36回）大会について

平成22年度の大会は、例年通り秋に2日間の日程で行うことを確認しました。

1日目に開会・大会行事、総会、全体研究会。2日目に分科会を行います。

3 第37回大会以降について

近年の市町村合併や学校統廃合などにより、各地区研のあり方も変わってきています。そのようなことを踏まえながら、平成23年度（第37回）以降の大会のあり方について、論議をしました。今後の理事会でも引き続き論議をし、よりよい大会のあり方について探っていきます。

4 事務局員選出方法について

こちらにも、市町村合併や学校統廃合などにより、各地区の会員数に偏りが見られるようになりました。会員数が少ない地区では、今後2名の事務局員を選出するのは難しくなるという話があり、事務局員選出方法についても、今後の理事会で論議をしていくことになりました。

5 共同実施アンケート結果について

昨年12月にご協力いただいた共同実施についてのアンケート結果については、今後考察を行い、HPに掲載するというを確認しました。

6 その他の協議事項

- ・HPにこれまでの研究大会のレポートなどの研究成果を載せることになりました。分科会レポートなど資料をお持ちの方はぜひ、提供ください。
- ・学校財務ウィーク（11月2日～6日）への取組について確認しました。

詳しい議事録は、熊事研HPに掲載されます。

全国公立小中学校事務研究大会復講

初めて全事研大会に参加させていただきました。参加者みなさんの意識が高く、とても刺激を受けて帰ってきました。研修内容が盛りだくさんなのと、まとめるのが大変苦手ですので簡単にご報告させていただきます。

八代市立鏡小学校 垣内愛和

学校財務セミナー 「学校経営ビジョンの実現に向けて」

—学校財務の統括者として— 全事研本部

第1部 「学校財務運営の取組についての実践報告」

報告1 「学校財務マネジメントの取組」

報告者 新潟県新潟市立新津第一中学校 吉川美恵子 氏

3つの実践について報告がありました。

①学校財務マネジメントを普及するために、市教委主催研修や地区研等多くの研修会で講師をされています。

②校内では、職員に学校のトータルコストをグラフ等を活用しながら提示したり、財務に関する基礎知識をワークシートを使って演習するなど、職員にとって学校財務が重要であるとともに身近だと実感してもらうことを校内研修で取り組まれていました。

③校内で組織している財務委員会主導で「集金額減額大作戦」とし、各教科、領域で教材選定する際には財務委員会が審査やヒアリングで関わる、全ての集金に関して財務委員会が関わっていき、結果として前年度より集金額減になったそうです。

最後に、財務委員会という組織で学校全体という組織を動かす、事務職員は1人でないということ、また、財務マネジメントは難しいことではなく今やっていることに+αしたり、見直すことでマネジメントになると話されました。

報告2 「学校徴収金システム改革の実践」

報告者 福岡県筑紫野市原田小学校 神代孝一 氏

福岡県教委の学校徴収金等取扱マニュアルをもとに実践された「学校徴収金システム」についての報告でした。

学校徴収金システムを、①文書主義、②説明責任と情報公開、③保護者負担軽減の3つの柱で実践されていました。その中で①未納問題の壁、②意識の壁、③仕事量の増加の壁という3つの壁があり、

それぞれの問題点解消に取り組まれているということでした。

学校徴収金システムの実際の運用には事務室の仕事量が増加しますが、中心的に担うことで学校全体のお金の流れが把握でき、学校全体の財務事務の効率化と適正化、また学校の教育活動を把握し財政的な裏付けができることにより学校の企画・運営に参画し貢献していけるのではないかと話されました。

最後に、いくつかの項目について受益者負担（学校徴収金）か、保護者負担軽減（公費）かを会場全体に聞かれました。挙手で答えましたが、学校の規模、事務職員の考え方、市町村の財政状況等で意見が分かれる項目もあり興味深かったです。

報告3 「教育課程を支える事務職員」

報告者 大阪府大阪市立柏里小学校 藤原義朗 氏

3つの取組について報告されました

①教育課程編成委員会のメンバーとして年間を通して教育課程に関わり、時数と予算を絡めて考えることでよりわかりやすく、予算も通しやすくなるということでした。

②予算委員会の取組として、「事業別 学校運営経費予算要求書」を年度ごとに作成されていました。初めて作成するときは大変だったが、一度作成すると学年や担当が変わったときに昨年までの流れがわかり、購入漏れや無駄がなくなったそうです。

③校務分掌では、事務部だけでなく教務部（教科書）も担当され、多くのことに関わっていらっしゃいました。

最後に、「事務職員の役割はいかに学校づくりに活かしていくか、その認識が極めて重要である。それは、地域性、学校の条件により様々にありうるが、学校づくりにいかに貢献できるか常に意識して、責任を果たしていくことが必要である。果たすべき役割を果たすためには、事務職員のいっそうの事務能力の向上が求められるとともに、調整力、企画力、経営力、そして教育に関する専門的知識を身につけることが必要と考える。」とまとめられました。

第2部 「学校財務マネジメント研修」

〔講義〕学校財務マネジメント研修－財務統括者としての事務職員を目指して－

講師 静岡県袋井市立袋井中学校 横山泉 氏

学校財務マネジメント【研修テキスト】の理論編をもとに、3つの研修のねらい①学校財務マネジメントの意義と特徴を把握する、②ケース・スタディを通して課題解決の手法を獲得する、③学校職員の資質向上のため、各学校や地域で学校財務マネジメント研修を実施する能力を獲得する について話を進められました。

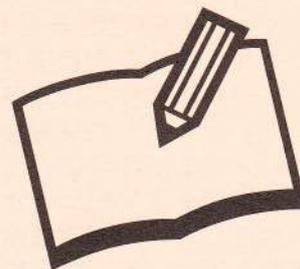
このテキストの発行者は全事研で、目次は「理論編」、「基礎知識編」、「実践編」、「事例編」、「参考資料編」となっています。是非テキストを活用いただき学校財務マネジメントについて研修してほしいということでした。テキストは全事研のホームページに掲載される予定だそうです。熊本県からも数名参加されていますので参加者におたずねいただいてもいいかと思えます

最後に演習に向けて研修テキストの構成と使い方について話されました。

〔演習〕1 個人演習 制度と諸規定について 自校をふりかえってみよう

- ・物品購入の流れについて
- ・事務職員（担当者）の専決権について

2 班別研修 校内組織の確立に向けて責任の権限の分配について考える



SGSFチームくまもとインタビュー



第41回全国公立小中学校事務研究大会福岡大会において、「SGSFチームくまもと」の皆様が熊本県代表として分科会を担当され、大成功のうちに発表を終えられました。

さて、熊本初の発表という大舞台に立たれた「SGSFチームくまもと」の皆様のお話は会員にとって大変興味深いのではないかと思います。そこで今回インタビューをさせていただきました。

学校事務についてのそれぞれの”熱い”思いが、会員の皆様に広がっていったら幸いです。

ずばり、発表を終えての手応えはどうでしたか。

(平木先生 以下敬称略) 研究発表は、発表、討議、助言すべて大成功だったと思っています。研究責任者として、当日の研究発表そのものより、それまでのスタッフのがんばりに感謝すると共に、発表に至るプロセスの中でスタッフ全員が得たものの方が大きかったと感じています。

(藤本先生 以下敬称略) 無事に終わり、ほっとしています。レポートの作成、発表を通してたくさんの方の事を学ぶことができました。

(神保先生 以下敬称略) 予想以上に会場からの反応が多く、今後の学校の在り方や財務について真剣に考えている人が多いと感じた。

(阿部先生 以下敬称略) 社交辞令を差し引いても、いい反応だったかなと思います。

(永野先生 以下敬称略) (感想になりますが) 分科会では、県外の沢山の方からの発言をいただき、本当に有り難かったです。しかも、大変和やかな、いい雰囲気、助言者のお二人のミニ講演も素晴らしい、いい分科会だったなあと思いました。すべて終わったあと、ほっとしてウルッと(涙が)出そうになりましたが、なぜか私は、(内容が良かっただけに)「これで終わってはいけない。これからは、始まりなんだ。」という気がして感慨にひたる気持ちにはなりません。

(藤井先生 以下敬称略) レポート発表後、一番最初に出された感想が「普通に平均点で仕事をこなしていればいいんじゃないか」という消極的なものだったので「えっ!？」という感じでしたが、県内外の多くの参加者から、たくさん実践を出していただき、手応えはあったと感じています。全事研大会へはここ5年ほど参加しているのですが、その時に参加した分科会よりも、今回のレポートはすごくメッセージ性が強かったように思います。

(堀内先生 以下敬称略) 分科会が無事に終了してホッとします。

たくさんの方に分科会に参加していただいて、いろいろご意見をいただいて私自身とても勉強になりました。

レポート作成の苦労話などありましたらお願いします。

(平木) チームでレポートを作成するのは初めてだったので、最初は戸惑いましたが、若いスタッフの皆さんの意見を聞くことで、自分自身のこれまでの実践や理論の再点検ができました。退職までもうひと頑張りしなくてはという気持ちになりました。

(藤本) 当初、熊本の実践を全国の皆様に紹介しようと、発表の1年半前から実践事例の収集・整理をすすめていました。しかし、魅力的な分科会にするためには、もう一工夫必要なのではないかということで、発表の10ヶ月前にメンバーを増やし、SGSFのチームを編成しました。SGSFチームは、アンケートの実施及び考察をおこないましたが、動き始めるのが遅かったので、時間がもっとあれば良かったと感じました。

(神保) レポートや研究が一人でできるものと思っている人がいるけれど、それは個人研究でない限り間違いです(個人研究は苦手です)。今回の研究は個人研究であってはいけなかったと思います。もっとじっくり研究する時間がほしかった。

(阿部) このレポート(プレゼン)作成のためにPCを買いました。(持っていたPCが購入後5年経って、起動・作業が非常に遅くなってしまったのもありますが…。妻に感謝)

(永野) 準備期間が大変短かったために、助言者の日渡円五ヶ瀬町教育長にも何度も会議に来て頂き、指導・助言をしていただきました。会議の会場は、ウイングまつばせで開催されることが多く、阿蘇の勤務地から車で高速道路を使って行くのは、最初は遠くてつらく感じていましたが、毎回日渡教育長から、大変参考になる助言をいただけるので、途中からまるで大学で日渡ゼミを受講するかのよう

な気分で、楽しく参加していました。発表が終わって、その夜の打ち上げで、もうこのメンバーで集まる機会はないのかと思うと寂しくなりましたが、今回研究チームに参加できて本当に良かったなと思います。

(藤井)昨年10月の初顔合わせから今年の3月までの半年弱の期間で、レポート作成・提出と非常にタイトなスケジュールでした。なかなか集まる時間も取れないので、メールでのやり取りが中心だったのですが、レポート提出締め切りが近づくとつれてメールの「嵐」となり、ついていくのが大変でした。

地区研の役(厄?)員や熊事研研究部員など、いろいろと経験させていただいているにも関わらず、まだまだ勉強不足だなあと感じる事が多くありました。レポートで私が書いた部分はほんのわずかでしたが、日渡教育長から会議のたびに宿題が出されたときは、正直しんどかったです。

(堀内)各自で分担してレポートとPP(パワーポイント)を作成したので、それぞれ個性があって、最初は担当部分で雰囲気の違いがありました。私が作成した部分は、藤井さんのものを参考にちょっと柔らかい感じにしたほうがいいかなと作り変えました。後で聞くと、阿部さんもイラストなど普通は入れないけど、今回は入れてみたと言われていました。

発表の裏話などありましたらお願いします。

(平木)レポートが完成した時点で、自分の役割は終わったという気分になってしまい、前日の祝賀会、2次会で飲み過ぎ、発表当日は、スタッフの皆さんに「酒臭い」と怒られました。

(藤本)アンケートの部分は、助言者の日渡さん、曾我さんに、たくさんご指導いただきました。取りまとめ役をされた神保さんのきりもりが非常に厳しい中、皆よく頑張ったと思います。

(神保)レポート執筆時の裏話です。第1回目の原稿持ち寄りの時、チームのメンバーの書いた文章がどれも力強く訴えかけるもので、自信に満ちていた。原稿のトーンを揃えるために原稿を読み合わせたが、文言を揃える程度でよかったことに驚いた。

(阿部)①レポートの作成会議中、日渡教育長は藤井さんがいつも持ってくるお土産のまんじゅうを楽しみにしていたこと。②発表当日午前中に出た質問の回答を昼食時間と午後一番の助言者ミニ講演の間に作成し、どうにか間に合ったこと。

(永野)日渡教育長は、見た目もスマートでダンディな雰囲気の方だと思いますが、無類の甘味好きで、チームメンバーである藤井さんが毎回差し入れてくれたお団子やおまんじゅうを喜んで食べておられました。もちろん、私も楽しみにしていました。

また、アンケートの部分はパワーポイントを使って発表しましたが、これは発表当日の早朝からギリギリの時間を使って修正を重ねながら行いました。今回初めてパワーポイントを使うチームメンバーもいましたが、初めてとは思えない程分かりやすく工夫をしていたので、驚きました。もちろん、主な担当者だった阿部さんも、みんなからの意見や要望を上手に表現し作成して、非常に分かりやすくなり素晴らしかったと思います。

分科会当日も参加者の方から、「アンケートの部分では、みんな引き込まれるように見ていた。」と聞いて、感激しました。

(藤井)行政機関職員へのアンケート依頼では、昔懐かし「進め!電波少年」のごとく、各課をまわらせていただきました。どういう意図でこのアンケートを行うのか、相手に「伝える」ということの大切さを改めて学ばせてもらったと思います。(アンケートにご協力いただきましたみなさま、お忙しい中快くお引き受けいただき、本当にありがとうございました。)

発表当日は朝7:00集合だったので(1日目の全体会場を3つに区切ったところにあったので、前日準備ができなかったのです)、メンバー内では「まるで運動会みたい!爆竹でも上げちゃう?!」なんて話も・・・。

発表後の打ち上げでは、本当はもう少し弾けたかったのですが、3日目の「まとめの会」の報告が待っていたので、打ち上げ会場で報告内容をせつせとまとめていました。実は、ステージ上でも直前まで読み原稿を書いていたんですよ(^_^);

(堀内)会場設営の関係で、朝7時会場に集合で、プレゼンの調整をしました。朝スクリーンに映してみても色の調整をしたのですが、時間との勝負であわてました。PPの中で歯車を回すアニメーションを入れていたのですが、リハのとき回らなくて、すごく苦労して作ったので回らないのかあとがっかりしましたが、本番ではすごい勢いで回ったらしくてみんなに回ったよと笑われてしまいました。

この発表を通して参加者に一番伝えたいことを教えてください。

(平木)学校事務を固定的に捉えるのではなく、それぞれの学校の実態に応じて、学校組織の中の機能として捉え直すこと。また、自分自身のキャリアに応じて実践を広げていってほしいということ。

(藤本)私の担当した部分は、レポートの前半で、熊本の学校財務に関する実践を紹介しました。全

事研本部が、福岡大会のテーマに関して「創意工夫を活かした特色ある学校づくりを行うことができる学校財務制度」「目指すべき学校の目標と計画、教育効果を最大限に引き出す学校財務」ということを課題提示しています。研究をすすめる中で、これに応えることのできる実践が熊本には沢山存在していることがわかりました。熊本県人吉市の法整備の取組、八代市の会計一元化への取組、小規模校での教務との連携協業、評価を取り入れた事務部経営案。そして古くは旧西合志町の学校財務に関する取組等々。これらの実践を紹介することで、熊本の事務研の学校財務研究のレベルの高さを、参加者の皆さんに伝えたいと考えていました。

(神保)事務職員の関わるべき財務の世界は、予想以上に広い。今までは半分の世界しか見えていなかったことに気づいたし、意識的に見ようとしないと世界は広がらない、ということでしょうか。

(阿部)教員(校長含む)と行政をつなぐことができるのは学校事務職員。

厳しい時代だからこそ、何かを変え、自分たちにしかできないこと、責任を持ってやれることを見つけ、逆に生き残るチャンスとすること。(Change、Responsibilityってどこかの大統領ですね)

意識を変える、手法を変える、そのスタートになればいいな。

(永野)レポートの中にもありますように、ただの『処理する人』で終わってはいけないということ。事務職員も教育活動に積極的にに関わり、子どもたちのために具体的に動き、具体的な成果を残しましょうということ。

(藤井)学校事務職員・行政機関職員のアンケートを分析していく中で、教育課程を「知っているつもり」で仕事をしていたなあと改めて感じましたし、予算についても、上手にやりくりする「処理する人」で満足していた自分に気付かされました。

校内研修へも参加したいとは思いつつ、電話番号や来客の対応等でなかなか参加できない状況にジレンマを感じたりしています。私と似たような状況の方も、中にはいらっしやるかもしれません。でも、自分にできることは何かを考え、少しでも自分自身の意識を変えていくことで、他の教職員の意識改革にもつながるのではないかと思います。

(堀内)研究の間すごくいろんなことを考えたのですが、やはり意識の持ち方を変えましょうというところに、私自身が一番感じた部分です。生意気ですが処理屋で終わったらだめだなと思っています。それと、最後に日渡先生から「最後は実践しなきゃだよ」と言われました。なんでも実践しないと、机上の空論になると思いますので、これから実践につなげていかないといけないなと思っています。

熊本の会員に一言お願いします。

(平木)熊本の会員の皆様には、これまでの仕事のやり方にとらわれず、学校の中で自分のできること、自分がやった方が学校がうまく運営できると思われることに、ひとつずつでも取り組んでみて、学校運営と学校事務の関わりについて実践の中から考えていってほしいと思います。

(藤本)今回、熊本を代表して全国の舞台上で発表する機会をいただきましたこと、会員の皆様にお礼を申し上げます。また、レポートを作成するにあたり、アンケートへのご協力をはじめ、実践を全国に紹介するのを快く承諾して下さった皆様、ありがとうございました。

今回の研究を通して、熊事研の発足当初からあった、熊本の学校財務研究の流れを確認し、その研究の流れが熊本の学校事務の研究実践の中に、今も生きていることを実感しました。全事研レポートの後半部分では、若手事務職員の皆さんが分析・考察を行いました。熊本のこれまでの実績があったからこそ、日渡先生のご指導を受け入れることが出来たし、レベルの高い考察をまとめることができたと考えています。

是非とも会員の皆様、これまで熊事研を中心として皆で取り組んできた研究実践に誇りを持ち、これからの熊事研を盛り立てて行きましょう。

(神保)アンケート等へのご協力、ありがとうございました。今後、熊事研でこの研究が体系的に広められ、系統的に深められていくことを希望しています。

(永野)今回は、この分科会参加者が県内からは36名という少なさで、非常に残念でしたが、この研究成果が、このまま何もせずに埋もれてしまうのは大変にもったいないと思います。

これから、どのようにこの研究成果を実践するかが重要だと思います。会員のみなさんからも、ご意見を伺い、また出来れば実践にも協力していただければ幸いです。

(藤井)今回、全国大会発表という貴重な機会をいただき、これまでの自分を振り返る・立ち止まって考えるいい機会であったと思います。勢いで突っ走っていた10代・20代から、これから迎える40代へ向けて、今30代のうちに「進化」しないといけないと、改めて感じています。

よくベテランの先生方から「後はわかもんに任せて・・・」ということを知っていますが、学校事務職員として学校に勤めている限り、「子どもたちのために何が出来るか」とか、「学校をよくするためにどうしたらいいか」など、学ぶ意欲(生涯学習)を失わない自分でいたいと思っています。

(堀内)今回このような機会を与えていただき本当にありがとうございました。ものすごく勉強にな

りましたし、いい経験になりました。今回行った研究を熊事研で引き継いでいただけると嬉しいなと思います

SGSFチーム熊本の皆様です。

八代市立泉第二小学校 平木 雅万
南阿蘇村立両併小学校 藤本久美子
上天草市立登立小学校 阿部 啓介
玉名市立横島小学校 藤井 優子

南小国町立南小国中学校 神保 京子
南阿蘇村立長陽中学校 永野亜紀子
宇土市立網田中学校 堀内 美幸

発表お疲れ様でした。



学校財務ウィーク紹介

財務ウィークとは

全事研が40周年事業として策定した「学校事務のグランドデザイン」で、新しい時代の学校事務・事務職員像を示すとともに、それを実践で示していくことを提起し、まずは、全国全ての事務職員が財務を総括することを目指したいとしています。そして、昨年度、この動きを広く社会に認知してもらうために、事務職員はもちろんのこと、校長はじめ教職員、文科省、地教委、保護者、地域とともに学校財務についての理解を深め、意識を高めることを目的に、11月1日から1週間を「学校財務ウィーク」とすることを提唱しました。また、これは、文科省・全国中学校長会・小学校長会等の教育関係機関にも働きかけ、理解を得ている取組です。

地区研や個々の事務職員はどんな取組をするの（参考事例）

1 管理職へのアプローチ

財務に関する情報公開や、教職員の共通理解について校長と意見交換を行う。

○自校の教育目標を達成するために、現在どのような取組を行って、どのような成果が上がっているのか、予算の効果も含めて検証する。また、その結果をふまえ今後の改善について、必要な予算の確保、重点的な配分について話し合う。

○教職員全体の財務に関する理解を深めるため、教育目標達成と財務の関わりや学校財務制度についての校内研修の機会をもってもらよう願います。

○その他学校の実情にあった財務に関する意見交換を行う。

2 教職員へのアプローチ

教職員に対し、日頃の教育活動（教育目標の達成）は予算によって支えられていることを理解してもらい、適正な予算活用が図られるよう働きかける。

○購入された教材備品等が効果的に活用されているか、予算要求に向けては、その教材がどのように活用され教育目標達成にどう関わるのかが明確となるような手だてを取り、教職員間の共通理解を図る。

○その他、財務を通して教職員が協働できるよう働きかける。

3 PTAへのアプローチ

PTAも巻き込んで、公費及び学校徴収金についてどうあるべきか考える機会を作る。

○PTA活動への参加を通して、適正な学校徴収金の在り方を協議し財務体制の確立に向けて共に考えていく。

○その他各学校の実情に応じPTAと連携した取組を行う。

4 教育委員会へのアプローチ

教育委員会に対し財務に関する情報公開、学校財務規則の制定等が促進されるよう働きかける。

○教育は、その地域の発展と活性化をもたらす基礎であるため、地域全体として考えていく必要がある。説明責任を果たすための情報公開も含め、その地域にあった学校財務はどうあるべきかなどを検討する校長会・教頭会・保護者や地域の代表者などと教育委員会及び主務者である事務職員からなる検討委員会等を設置するよう働きかける。

○その他地域の実情に合わせた働きかけを行う。

5 地区研での会員相互の交流によるアプローチ

会員間の活発な実践交流・研究を通して、財務の総括者としての力量を高める。

○地区研で、財務に関する実践交流や先進地区の実践事例についての研修を深めたり、それぞれの地区にあった財務制度や規則についての研究を行い教育委員会への働きかけの基礎資料を整備する。

○教育基本法をはじめとする関連法令や学習指導要領の趣旨や内容を理解し、教育目標とリンクした学校財務についての研究や研修を実施する。

○その他各地区の実情に応じた取組を行う。



九州各県の研究大会の日程をお知らせします

INFORMATION

☆鹿児島県小中学校事務研究大会

日 時 平成22年2月16日(火)～17日(水)

16日12:30～16:55 17日 9:30～16:00

会 場 かがしま県民交流センター

講 演 文部科学省特別講演(予定)

大学教授等の学校関係者または一般の講演(予定)

分科会 3分科会 参加費 資料代 3000円

大会記録についてのお詫びと訂正

先日発行しました第35回熊本県学校事務研究大会の「大会記録」に関して、手続き上の不手際と誤植がありました。編集責任者として心からお詫び申し上げますとともに訂正をさせていただきます。

まず、講演及びシンポジウムでの質問者の学校名とお名前を实名で記載しましたが、事前にご了承を得ておりませんでした。質問されたご本人に大変失礼なことをしてしまいました。心からお詫び申し上げます、下記のとおり訂正します。

大会記録 16ページ

(正) 質問 楠小学校 古里さん

(誤) 質問 楠小学校 大石さん

次に、熊事研のページ(54ページ)の第33回大会、第34回大会の備考欄の共同実施加配の人数が誤っていました。

加配人数は、平成19年度が20名、平成20年度が21名です。

大変申し訳ありませんでした。

大会記録編集責任者 研究部長 平木雅万